前かけをし、赤い着物を着て舞台に立っておどれるのです。うれしくて、勇気がわいてくる様でした。発表一週間前の練習は、毎ばん続きました。

いよいよ発表当日です。一生けん命応えんしてくれた祖父や獅子おどりの先生方も一番前で見てくれています。今回、獅子がしらをかぶれなかった友だちも、着物を着るのを手伝ってくれました。伝とうある小松の獅子おどりを最後まで堂々とおどること、また新しいおどりを覚えながら、これからも続けていくことを心に決めて、ぼくは最初のポーズをとりました。